

大安寺観月会・野煎席

(財)煎茶道方円流 藤木夢園

旧暦の8月15日の十五夜の月は「中秋の名月」又は「芋名月」とも呼び、古来より秋草や芒(すすき)、芋や団子を供えて月見を愉しんできました。



手前座に飾られた「喫茶去」(きっさこ)。黄檗山(おうばくさん)万福寺56代禅梁の書。喫茶去とは禅の言葉ですが、お集まりの皆様「急いだ心を落ち着かせて、お茶を飲んで一息いれませんか。」との、もてなしの言葉です。

※「去」の字は「喫茶」の強調の助辞であり、「去る」という意味はありません。

立札角盆煎茶

花器には、芒(すすき)と白萩。手前座に置かれているのは石榴(ざくろ)



竹取物語に因んで選んで頂いた急須(竹に鳳凰)と昭阿弥作のお茶碗(竹)